

中田かわら版 10月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田地区経営委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所

制作：中田かわら版制作編集委員会

横浜市踊場地域ケアプラザ

■このひとに会いたい<73>

横浜第31団ボーイスカウト

思いやり、人を助けるためを目指して

団委員長 小澤恵一さん（64歳）



令和4年4月から団委員長に就任。宮本忠直さんが昨年3月に逝去され、その後任である。小澤さんは御霊神社の幼稚園の園長を永年勤めてきた。宮司と団委員長と一挙に3つの肩書を持つことになった小澤さんに最初の質問「お忙しくなったのでは?」。「確かに。泉区には現在、御霊神社を含む17ある神社の宮司として、また幼稚園の園長の仕事もあり、かなり多忙になります」。しかし、新団委員長としては、それも覚悟の上らしい。ケロッと答えるあたりはさすがだ。

同団の正式名「日本ボーイスカウト神奈川連盟みなと地区横浜第31団」は昭和27年（1952年）に発隊式を行い、今年で70周年を迎えた。小学生から社会人まで幅広い年齢層が「健全育成を目指し、多くの人を助ける」ためをモットーに活動。それには自らも磨かねばならない。団は年齢によって5つの隊に分かれている。ビーバースカウトは小学校就学前の1年から2年生まで。カブスカウトは小学3年から5年生。ボーイスカウトは小学6年生から中学3年生。ベンチャーズスカウトは高校1年から3年生。その上のローバースカウトは大学生でリーダーとして活躍している。組織的には「団委員会」があり団委員長はじめ副団委員長、常任団委員、会計、会計監査を置く最高の機関だ。その他「育成賛助会」があり団員やOB、地域の協力者からなる支援団体である。「備えよ常に」——「ボーイスカウト」の合言葉だ。自然を愛し、自然を大切に。また思いやりのある人間形成を磨くところでもある。日々訓練には野外キャンプ、工作、結索、通信、測量、救助法など学ぶ。赤い羽根募金共同募金や地域のイベントにも欠かせない存在である。隊には厳然と上下関係があるが、敬意と信頼の上に成り立っている。こうした体験は学校や一般社会では学べない数少ない組織体といえるだろう。



小澤さんは東京・大田区の生まれ。高校は都立工業で、在学中はサイクリングにはまって富士五湖まで行ったことも。趣味は写真と旅行。大学では電子工学科を専攻。就職先はプラントの計装設計の会社でインド、タイ、ドイツと海外出張も経験。平成7年、中田東に転居。勤務は朝から終電まで。ときには徹夜もあるという生活だった。ある日、20年くらい前になるが義理の父でもある宮本さんが宮司の跡継ぎを探しているのを聞き、自分が後を継ぎたいと申し出る。転職後は2年間かけて国学院で神職研修と指定神社研修を受け宮司の資格を取得した。小澤さんは次代の子供たちに

希望することがある。「これだけは誰にも負けない」というものを身につけること。何かにくじけたときと役に立つと。礼儀正しく思いやりの精神、人のために考え実行できる人間。当然、日ごろの訓練、研究、技術のスキルアップが欠かせない。最後にこうも言った。大人になったとき自分の人生に何か自慢できるもの、誇りを持って生きてきた。と言える人間になってほしい。

（宮田貞夫）

■中田の活動がNHKの全国放送に

ベルガーデン水曜クラブ

NPO法人 日本園芸療法研修会

代表理事

澤田 みどりさん

(恵泉女子大学 准教授)

植物は五感を刺激し、安心感や、安らぎ、落ち着き、開放感や気分転換など私たちの気持ちを穏やかに和ませてくれます。季節ごとの植物を見ていると成長の期待や将来への希望が生まれてきます。植物を育てる園芸作業は、手先を使う細かい作業から、全身運動まで様々な身体運動が可能になり、適度な運動から脳の活性化、食欲増進、快眠導入、生活リズムを整えるなどの効果も引き出します。そして、育てる過程で達成感、満足感、責任感、自信、喜び、楽しみなど多くの精神的効果をもたらします。何よりも植物を通じた会話が増え、仲間ができ、協調性、協力、助け合いが広がります。



NHKの取材を受ける澤田みどりさん(左)

これらの植物や園芸作業が人に与える効果をリハビリテーションに活用する方法を園芸療法と言います。園芸療法の普及と教育を目的に1995年、日本で最も古く設立されたNPO法人日本園芸療法研修会



(1997年以来社会福祉法人開く会共働舎内に事務所＝中田西1-11＝があります)は、2005年に踊場地域ケアプラザのご協力を得て、園芸療法を学んだスタッフで運営する「ベルガーデン水曜クラブ」という介護予防を目的にした活動を始めました。10月で18周年！毎週水曜日10時45分～13時45分の3時間の活動で、泉区の「通所型サービスB」の一つとして運営しています。地域で何らか生活支援、自立支援

を必要とされている方が週一回安心して訪ねて来られる外出の場、仲間作りの場となる位置付けを目指しています。

踊場地域ケアプラザの屋上ガーデンと中田にある私庭をお借りして、四季折々の花や野菜を育て、押し花、ドライフラワー、フラワーアレンジメント、染色など暮らしを彩るクラフト作業や、育てた野菜をスタッフと地域のボランティアさんが美味しいランチにしてくださり、盛りだくさんのプログラムです。



これまで何度かマスコミに取材をいただきましたが、7月には「NHK 趣味の園芸やさいの時間」でも紹介されました。興味のある方はぜひ踊場地域ケアプラザへお問い合わせください。

編集後記

秋、お酒の美味しい季節になりました。お茶もまた然りである。厚手の茶碗は熱伝導が遅いので手に持っても熱く感じない。なんとなく手になじんで人肌に包まれるように身体に同化する。茶碗でお茶を飲んでいても手で直接飲んでいるように感じる。器の存在が無に帰り器は主張しなくなる。茶の道での教えと聞き及ぶが、月を愛でながら盃を片手に己の存在を主張しない人の道に思いを馳せたい。

(田中 進)

◎発行：中田地区経営委員会「かわら版」制作編集委員会

委員長 宮田貞夫 編集長 松本正

編集委員；山木重樹、小島敏子、田中進、河内満明、松本純子、鈴木賀津彦、嶋 宏之